

令和3年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標	「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。 ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。 ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。 ④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。	今年度の 重点目標	新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策を十分行いながら、教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。 （１）自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進 （２）協同の学びで自他を高める教育の推進 （３）学びを創造する力を高める教育の推進

年 度 当 初				最 終 評 価 結 果				
評価項目	現 状	目 標	目標達成のための方策（赤字：重点又は新たな取組）	具体項目 達成度参考基準 学校評価アンケート等評価基準 A80%以上 B70%以上 C60%以上 D50%以上 E50%未満	経過・達成状況	評価	改善方策	
（１） 自立を促すキャリア形成能力を 育てる教育の推進	○平均取得資格数 H29 1.34 件→1.71 件→1.60 件→R2 1.52 件 ○就職内定率 98.4% ○県版 HACCP 導入確認検査（R2 年 2 月）、JGAP 認証（R2 年 7 月）維持承認、スーパー農林水産業士 3 名認定 ○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導と答えた生徒割合 H29 74%→78.1%→79.3%→R2 82.5% ○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた割合 生徒 H29 91.9%→90.4%→92%→R2 90.6% 保護者 H29 63.5%→59.3%→67%→R2 67.3% ○掃除が行き届き、すがすがしい環境 生徒 H29 64.2→62.8%→62.8%→R2 68% 教員 H29 50.0→45.8%→52.7%→R2 50.9% ○学校からの文書をよく持ち帰っていると答えた保護者割合 H29 60.7%→67.6%→62%→R2 64.1% ○HP 積極的に情報発信 H29 76.6%→74.7%→73.5%→R2 75.1% ○新型コロナウイルス感染症対策として多くの資格試験が延期・変更、施設実習や社会人講師による学習は県内講師による講義やリモート講演に替えるなど工夫して実施 ○2 年生インターンシップ（11 月）を中止し、代替として鳥取市経済・雇用戦略課事業の企業見学会を 10 月に実施、1 年生上級学校企業見学（10 月）は予定通り実施 ○生徒からすすんでの挨拶が不十分 ○感染症関連の緊急連絡においてもホームページを迅速に更新しマチコミも有効に活用	・基礎学力の充実や専門領域の基礎基本を身につけ、資格検定への積極的な挑戦を促す。 ・インターンシップや企業・上級学校見学等を通して、ふるさとで働き、学ぶ意識を高める。同時に勤労観・職業観を育成し自らのキャリアを設計する基礎を育てる。 ・生徒に仲間とともに学ぶ喜びを感じると同時に「学ぶ責任」があることの意識を高める。 ・高校生として、「見られる自分」を意識しながら、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開く意欲と素直さを身につけさせる。また、自身の命を守る意識を醸成し、先の危険を読み取る行動が取れる力を養う。 ・教職員が方向を揃え保護者や地域と連携し、明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。	○授業の充実を基本とし、資格取得への丁寧な指導を引き続き行う。 ○2・3 年次課題研究や JGAP・HACCP・5S の学習を通し専門学科での学習の充実を図る。 ○進路ノート・キャリアポートなどで、進路実現に向けて先を見通した支援に取り組む。 ○新たに「卒業生に学ぶ会」や卒業生による講演（創立 20 周年記念事業）を実施し進路指導につなげる。 ○1 年次から適性検査を導入し、自己理解及び職業理解を深める。 ○日常より頭髮服装、礼儀、言葉遣いについて自覚を促す指導を科指導や保護者と連携し、全職員で取り組む。学校と保護者・地域が目標を一致させ協力関係のもと粘り強く取り組む。 ○校内に持ち込んだゴミは各自が持ち帰るなど、すがすがしい環境づくりと、消毒作業をワークセンターに協力いただきながら継続する。 ○学校文書の確実な持ち帰りを基本とし、教職員・保護者の連携を推進する。 ○ホームページの迅速な更新やマチコミの有効活用など、引き続き積極的な広報（新型コロナウイルス感染関連情報等）をすすめる。 ○令和 4 年度一人一台端末に向けて、配布文書等の電子化をはじめ、オンライン情報機器の対応など、組織的対応の準備をする。	○生徒一人当たりの取得資格数 A1.7 件以上 B1.5 件以上 C1.2 件以上 D1.0 件以上 E1.0 件未満 ○就職内定率 ○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 ○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒・保護者の割合 ○掃除が行き届き、すがすがしい環境と答えた生徒・教員の割合 ○学校からの文書をよく持ち帰っていると答えた保護者割合 ○ホームページ等を活用して積極的に情報発信していると答えた保護者の割合 ○タブレット型端末の活用状況調査結果	○資格検定は新型コロナウイルス感染症による影響は少なくほぼ予定通り実施。高度なものにも合格。合格率 54.7%(12月) 生徒一人あたりの平均取得資格数 1.6 件(2月) ○JGAP 認証は 7 月に更新。HACCP も継続。スーパー農林水産業士を 3 年生 1 名が取得、2 年生 2 名は取得に向け継続。 ○2 年生インターンシップ（中止）の代替となるキャリア教育(企業見学等)を実施。 ○創立 20 周年記念式典(4月)における卒業生による記念講演では、多方面で活躍する先輩から直接話を聞くことで今後の進路選択の一助とした。 ○自分の適性や進路希望を生かした進路指導 H29 74%→78.1%→79.3%→82.5%→R3 85.5% ○生徒からすすんでの挨拶は十分ではないが 87.7%の生徒は気持ちのよい挨拶をしていると回答。 ○服装や身だしなみが整う 生徒 H29 91.9%→90.4%→92%→90.6%→R3 84.4% 保護者 H29 63.5%→59.3%→67%→67.3%→R3 61.6% ○感染症防止対策としての消毒作業はワークセンターや保健係等を中心に継続して実施。11 月以降は共用タブレットの消毒も毎日実施。 ○掃除が行き届き、すがすがしい環境 生徒 H29 64.2→62.8%→62.8%→68%→R3 60% 教員 H29 50.0→45.8%→52.7%→50.9%→R3 58.4% ○学校文書をよく持ち帰ると答えた保護者割合 H29 60.7%→67.6%→62%→64.1%→R3 63.2% ○HP 等積極的に情報発信と答えた保護者割合 H29 76.6%→74.7%→73.5%→75.1%→R3 74.3% ○感染症関連の緊急連絡はマチコミメールで迅速に対応。Google クラスルームも有効活用した。 ○タブレット型端末活用状況は、全生徒が何らかの授業においてタブレット型端末を使用。授業で活用する教職員は 60.4%(7月)→87.5%(12月)に増加。 ○ICT 活用学習の充実のため学習環境（クロームキャスト・AppleTV・農場アクセスポイントの設置等）の充実を図った。	B	○資格検定試験に向けての取組み（補習等）を継続し、より難易度の高いものを含め合格率向上を推進。 ○校外実習等は可能な限り来年度も継続実施の方向。実施が難しい場合は代替も含め臨機応変に対応。 ○インターンシップは実施時期・内容等についての検討が必要。 ○適性検査を取り入れた自己理解を深める進路 LHR を継続し、学年・科・他分掌との情報共有を図る。 ○就職支援が必要な生徒への支援体制の構築。 ○日常の頭髮服装、挨拶等の指導について引き続き全職員で粘り強く取り組む。保護者への連絡を密にし、共有することで協力関係を築く。 ○すがすがしい環境づくりとワークセンターに協力いただいている消毒作業を継続。 ○ホームページの迅速な更新やマチコミメール・Google クラスルームの有効活用など、積極的な広報を今後も継続。マチコミメール登録者数の推進(R3 登録者数 約 70%)。 ○タブレット利用状況把握のため貸出簿の記入を徹底。 ○教職員のタブレット端末の日常的な活用の推進や GoogleWorkspace for Education による生徒との連絡手段・課題配信が充実することで、授業の活性化につなげる。	
	（２） 協同の学びで自他を 高める教育の推進	○地域社会と連携して学校外の教育力を積極的に取込むと答えた教職員の割合 H29 83%→79.6%→90.9%→R2 80.3% ○湖陵高校への理解（湖陵フェスタアンケート） H28 83%→70%→92%→R1 85%→R2 は湖陵フェスタ開催中止 ○特別支援学校と 9 月に iPad 遠隔交流を実施、園芸交流・小学校とのプログラミング交流を 12 月に実施 ○人権や命を大切にしている教育が行われていると答えた生徒の割合 H29 75.4%→73.1%→79%→R2 79.9% ○LGBT に関するリモート講演会を 9 月に実施し、理解しやすかったと好評 ○学校は生徒の心身の悩みにかかわる相談について適切に対処と答えた保護者の割合 H29 79.8%→79.1%→80.5%→R2 80.6	・学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す。 ・小中学生や県民に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする。 ・地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる。 ・障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む。 ・特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う。	○専門教育の意義を実感して学びを深めるため、本校教育資源の提供による各種交流、地域社会・産業界と連携、湖陵フェスタでの教育成果発信に取り組む。 ○各種の交流を通し、共生の心や自他を尊重する気持ちを育む。 ○クラスの実情に即した人権教育 LHR に生徒・職員がともに取り組み、人権侵害や差別を許さない集団づくりを行う。SNS など新たな課題を含め各種校外研修会に参加し、知識や理解を深める。 ○QU アンケート結果などを踏まえ、各立場が連携し、適切な対応をする。 ○新たに作成した湖陵版「特別支援教育の手引き」を活用し、組織的に指導に取り組む。 ○ホームページと新たに開設した「鳥取湖陵チャンネル」（YouTube）で、学科紹介・専門教育、部活動の取組などをタイムリーに掲載し、本校の魅力発信に努める。	○地域社会と連携して学校外の教育力を積極的に取り込んでいると答えた教職員の割合 ○湖陵フェスタ来場者アンケートで湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合 ○人権や命を大切にしている心を育てる教育が行われていると答えた生徒の割合 ○学校は生徒の心身の悩みにかかわる相談について適切に対処と答えた保護者の割合 ○「鳥取湖陵チャンネル」の視聴状況	○地域社会と連携、学校外の教育力を取り込む 教員 H29 83%→79.6%→90.9%→80.3%→R3 92.3% ○地域の学校との交流事業をほぼ計画通り実施。 iPad 遠隔交流(特別支援学校)、プログラミング交流(小学校)、園芸交流(小学校・幼稚園等) ○高大連携(天然酵母抽出)、生産物の販売実習(わったいな・道の駅)、企業連携(店舗のロゴ製作)、国際交流(ジャマイカ大使)等も計画通り実施。 ○LGBT に関する講演会(リモート)、インターネットでの人権侵害に関する研修会等を実施。コロナ感染症に関する人権への配慮やいじめ防止への啓発教育にも力を入れた。 ○人権や命を大切にしている教育が行われている 生徒 H29 75.4%→73.1%→79%→79.9%→R3 92.3% ○QU アンケート後に面談を実施し生徒理解に繋がった。 ○特別支援教育に関する職員研修を定期的に開催し職員の意識や知識の向上に努めた。 ○「鳥取湖陵チャンネル」は学科紹介やコロナ感染防止啓発等に活用。動画配信本数 R2 7→R3 25 ○9 月から「鳥取湖陵Instagram」を開設。	B	○今年度の湖陵フェスタは Web 開催だったが、来年度は通常通り来場形式の開催をめざす。 ○地域との交流事業を今後も継続。 ○クラスの実情に即した人権教育 LHR に引き続き取り組み、人権侵害や差別を許さない集団づくりを行う。人権教育講演会や職員研修会等の一層の充実を図る。 ○QU アンケート結果等を踏まえた適切な対応に加え、必要に応じた外部機関との連携、教室環境の工夫等を推進。 ○コロナ感染の影響はあるが、遅刻者が昨年度より著しく増加。遅刻をしない生徒の育成対策が必要。 ○「鳥取湖陵チャンネル」(YouTube)や学校HP、Instagram 等情報発信の充実を進め、専門教育や学校行事、部活動等の積極的な発信を推進。

(3) 学びを創造する力を高める教育の推進	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫と答えた生徒の割合 H29 67.8%→69.6%→73.2%→R2 80.7% ○授業改善に向けて日々の取組を行うと答えた教員の割合 H29 79.7%→71.2%→81.8%→R2 82.2% ○公開授業の実施 41 授業（実施率 70.2%） ○家庭学習ほぼ毎日 H29 25.8%→24.6%→25.9%→R2 31.3% ○基礎力診断テストの結果が前年度より向上した生徒の割合 1 年比較データ無 2 年 48% 3 年 37.1% ○iPad で授業に関心-主体的に取り組む生徒 H29 56.2%→67.7%→69.7%→R2 69.2% (R2 情報科学科 94%) ○共用 iPad 使用頻度週 30 時間中 H29 25→27.7→29.2→R2 30 時間 ○「Classi」（基本サービス）と G-Suite を導入し双方向の通信を全校で確保、年度末までに端末（Chromebook または iPad）を全教員へ準備 ○授業研究をウェブ視聴できるアクティブラーナーや授業支援アプリ MetaMoJi など導入	・実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する。 ・専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。 ・ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。 ・BYOD の成果と課題を検証し「一人一台タブレット」に向け準備・発信する。 ・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。	○各自 1 回以上の公開授業・授業研究会を継続実施する。 ○専門教科と普通教科の授業連携（農業と生物、家庭と現代社会、工業と物理）をさらに深め、学習意欲の向上を目指す。 ○「まな数」教材を見直し、学び直しの在り方を検討し、基礎学力強化を図る。 ○GIGA スクール構想予算で特別教室などの Wi-Fi 環境を改善し、全ての教員に準備した端末（Chromebook または iPad）の利便性を更に高める。 ○iPad 授業研究会を公開したり、県外の先進的な取組の視察を継続する。 ○効果的にアプリを活用する授業実践を進め、主体的で深い学びの一助とする。 BYOD の取組を拡大することができないか、総合的に検討する。	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 ○授業改善に向けて日々の取組を行うと答えた教員の割合 ○基礎力診断テストの結果が入学時より向上する生徒の割合 ○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 ○iPad を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 ○共用 iPad 使用頻度 昨年度以上	○公開授業の実施 28 回(1/25 現在) ○授業連携では、コロナ禍で講師派遣等計画通り実施できない点はあったが、農業分野の高大連携事業を含め、各教科で取り組めた。 ○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫生徒 H29 67.8%→69.6%→73.2%→80.7%→R3 79.2% ○授業改善に向けて日々の取組を行う教員 H29 79.7%→71.2%→81.8%→82.2%→R3 84.6% ○今年度から「まな数」を「朝トレ」に変更。テキストも「マナトレ」から「S P I 問題集」に変更し、基礎学力の一層の定着を図った。 ○基礎力診断テストの結果が前年度より向上した生徒の割合 1 年比較データ無、2 年 59.3%(R2 48%)、3 年 37.5%(R2 37.5%) ○家庭学習ほぼ毎日 生徒 H29 25.8%→24.6%→25.9%→31.3%→R3 30.2% ○chromebook 等端末を全常勤職員へ配布(8 月)。 ○iPad で授業に関心 主体的に取り組む 生徒 H29 56.2%→67.7%→69.7%→69.2%→R3 68.4% (R3 情報科学科 93%) ○共用 iPad 使用頻度 週 30 時間中 H29 25→27.7→29.2→30→R3 30 ○ICT 支援員の定期来校を 9 月から実施し、教職員の ICT に関する困り感の軽減に繋がった。	B	○各自 1 回以上の公開授業・授業研究会を継続実施。 ○専門教科と共通教科の授業連携は継続実施し、生徒の学習意欲の向上を目指す。 ○進学希望者の基礎学力対策として、放課後等の学習会を開催する他、2 年生へ奨学金制度について周知。 ○基礎力診断テストを年 3 回実施に戻し、冬休み課題を見直す。 ○BYOD の推進として、年内の校内 Wi-Fi の開放・運用を目指し、利用方法・時間等を継続検討。 ○来年度も ICT 活用研修会(2 回)、ICT 活用公開授業研究会(1 回)等校内研修会を実施し、指導に役立つ iPad 等の活用の研究について取組む。 ○アクティブラーナーの視聴利用及び各種アプリを効果的に活用した授業実践を推進。 ○来年度も ICT 支援員の定期来校を継続。
(4) 業務改善の取組	○時間外業務時間数（教職員月平均） H29 22.2 時間→18.0→14.1→R2 11.7 時間	○時間外業務時間月平均を昨年度以下とする。	○部顧問人数を見直し「鳥取湖陵高等学校部活動に係る方針」を着実に実行する。 ○勤務時間外の留守番電話、盆期間等の対外業務停止日を設置。 ○毎日の教職員連絡を端末に配信するなど、端末活用を日常化し校務の効率化を図る。 ○必要に応じて、ウェブ会議・在宅勤務等を実施する。	○左記具体的方策を着実に実行	○時間外業務時間数（教職員月平均） H29 22.2 時間→18.0→14.1→11.5→R3 12.2 時間(1 月まで平均) ○部活動は、昨年度に比べ通常に近い形で大会及び練習等が実施できたことにより時間外業務時間が微増したが、1 月以降はオミクロン株の急拡大で部活動の時短・休止等余儀なくされた。 ○新型コロナウイルス感染拡大に伴い、夏季休業期間中に限り出勤者の削減(在宅勤務の推奨)に努め延べ 11 名が取得。昨年度に引き続き対外業務停止日(8 月)を設置するなど年休等取得しやすい職場環境づくりに努めた。 ○勤務時間外での電話・窓口対応をやめたことで時間外業務の負担軽減につながった。 ○職員の密を回避するため、校内の会議や研修会等を適宜リモート及び分散形態等で開催したことで会議等の時間削減にもつながった。	B	○引き続き、適切な業務改善に取り組む。 ○勤怠管理システムによる時間外業務時間の適切な入力を行うことで業務改善につなげる。 ○同好会が 1 つ増えたことで職員の負担が増さないよう、部活動の精選を中・長期的に進めていく。 ○教職員連絡の端末配信が充実するよう、全職員の登録を促す。また、ノーツメールの活用についても推進。

JGAP（Japan Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）・HACCP（Hazard Analysis Critical and Control Point：食品の衛生工程管理）・BYOD（Bring Your Own Device）

評価基準

A:十分達成[90%]

B:概ね達成[70%程度]

C:変化の兆し[60%程度]

D:まだ不十分[40%程度]

E:目標・方策の見直し[30%以下]